

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第 1 項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	令和 2 年 3 月 27 日
【事業年度】	第56期（自 平成31年 1 月 1 日 至 令和元年12月31日）
【会社名】	株式会社旭川国際ゴルフ場
【英訳名】	ASAHIGAWA KOKUSAI GOLF Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 太田 秀明
【本店の所在の場所】	旭川市 5 条通10丁目2233番地の13
【電話番号】	(0166)23-6613（代表）
【事務連絡者氏名】	支配人 宮崎 泰和
【最寄りの連絡場所】	旭川市 5 条通10丁目2233番地の13
【電話番号】	(0166)23-6613（代表）
【事務連絡者氏名】	長谷 保
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第52期	第53期	第54期	第55期	第56期
決算年月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月	平成30年12月	令和元年12月
売上高 (千円)	186,105	168,065	166,659	168,803	161,064
経常損益 (千円)	△24,633	△26,056	△30,785	△17,912	△23,015
当期純損益 (千円)	858	△1,731	241	381	438
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	—	—	—	—	—
資本金 (千円)	207,000	207,000	207,000	207,000	207,000
発行済株式総数 (株)	41,400	41,400	41,400	41,400	41,400
純資産額 (千円)	△149,199	△150,930	△150,689	△150,309	△149,871
総資産額 (千円)	917,335	888,599	844,633	822,072	797,829
1株当たり純資産額 (円)	△3,604	△3,646	△3,640	△3,631	△3,620
1株当たり配当額 (円)	—	—	—	—	—
(うち1株当たり中間配当額) (円)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
1株当たり当期純損益 (円)	20.73	△41.80	5.81	9.20	10.57
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	△16	△17	△18	△18	△19
自己資本利益率 (%)	—	—	—	—	—
株価収益率 (倍)	—	—	—	—	—
配当性向 (%)	—	—	—	—	—
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,323	△2,990	△7,814	△2,241	△4,112
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△4,305	△4,821	—	85,950	3,890
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	—	—	—	—	—
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	35,746	27,935	20,121	103,830	103,608
従業員数 (人)	9	10	12	13	15
〔外、平均臨時雇用者数〕	〔40〕	〔38〕	〔38〕	〔33〕	〔29〕
株主総利回り (%)	—	—	—	—	—
(比較指標：—) (%)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
最高株価 (円)	—	—	—	—	—
最低株価 (円)	—	—	—	—	—

(注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等（消費税及び地方消費税をいう。以下同じ）は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2【沿革】

昭和39年6月 株式会社旭川国際ゴルフ場を設立し、ゴルフコースの造成を開始する。

昭和40年9月 ゴルフコースオープンする。

平成2年4月 クラブハウス新築落成する。

3【事業の内容】

ゴルフ場の経営

- 1) ゴルフ場内における運営は、旭川国際カントリークラブ（親睦団体）がその掌に当たっております。
- 2) カントリークラブは理事24名によって理事会を構成し、管理運営に当たっております。
カントリークラブは理事会の他に各委員会（競技、ハンディーキャップ、ハウス、フェローシップ、コース、エチケット、キャディー）があり、それぞれの分野を担当しております。
- 3) カントリークラブの会員となるためには、株主会員及び権利会員、平日会員は一定額の会員資格保証金（預り金）を納入し、且つ毎年一定額の会費を納入して、初めて会員としてプレーをする資格を取得するものであります。
- 4) 会員及びビジターがプレーした場合には、グリーンフィ、キャディーフィ、練習場料金、ゴルフ場利用税等を支払います。
- 5) クラブハウスにはロッカー及び浴場が設備されております。
- 6) 以上の3）、4）、の収入がカントリークラブ即ちゴルフ場収入であり、ゴルフ場の維持管理は勿論会社の運営費に充当されております。

4【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

令和元年12月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
15 [29]	53.8	11.9	3,371,879

- (注) 1. 従業員は就業人員であり、臨時従業員数は〔 〕内に雇用期間中の平均人員を外数で記載しております。
又、臨時従業員は、作業員男子4人、ハウス関係男子3人、女子2人、及びキャディー男子2人、キャディー女子9人、レストラン男子2人、女子7人を4月から11月までのオープン期間中それぞれ臨時雇用しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(2) 労働組合の状況

労働組合はありません。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当期は入場者数が前期比較で573名減少しました。依然として会員の高齢化、若者のゴルフ離れやレジャーの多様化などのより、構造的、長期的に厳しい経営環境が続くと思われます。

こうした中、当社はお客様の満足度向上を最優先として、各種の課題に取り組んで参ります。当社の課題は次のとおりです。

- ①集客力のあるイベントやコンペの開催
- ②インターネット（楽天GORA、GDO、じゃらん等）を活用した企画商品の提案
- ③会員の高年齢化に対する対策
- ④人件費をはじめとする経費削減による収益向上

2【事業等のリスク】

(1)自然環境にかかわるリスク

台風等の自然災害や、散水用の水不足などが、当ゴルフ場のコース・設備に重大な損害をあたえる可能性があります。特にコースコンディションが悪化した場合、修復のため入場者の制限などをしなければならない可能性があります。このことにより、売上高の減少、修復のために巨額の費用を要することとなる可能性があります。

(2)事業継続に関するリスク

当社は継続的に営業損失を計上しており、債務超過状態にあります。今後の業績の状況によっては、事業の継続性に影響を及ぼす可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)経営成績等の概要

①経営成績

当事業年度は昨年同様の4月27日のオープンとなりました。公式戦46回、オープンコンペ39回を行い顧客集客に努めました。また今シーズンは積雪の早まりのため11月5日の営業を最後にクローズとなりました。営業日数は昨年より13日間少ない191日となりました。この結果入場者数は、17,626人（前年比573人減）となりました。

売上高は161,064千円で前年比7,739千円の減収となりました。これは、会員をはじめとするプレーヤーの高年齢化によるプレーフィーや年会費収入の減少や、近郊ゴルフ場との過当競争激化による低価格化などが主な要因であります。

販売管理費は182,711千円と前年比2,360千円の減少となりました。これは、自動精算機の導入などによる業務の効率化により人件費をはじめとする経費を圧縮したためです。

経常損失は23,015千円で前年比5,103千円悪化しました。昨年より5,228千円多い債務償還益23,864千円を特別利益としたので当期純利益は438千円となりました。

次年度に向け、会員同伴プレー券の配布、月曜の完全セルフデー、金曜の昼食付企画などで集客を強化し、近郊他クラブとの入場者獲得競争に対応するとともに、名義書換の特別キャンペーンを行い会員の高年齢化対策を積極的に推進します。

②キャッシュ・フロー

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前事業年度末に比べ222千円減少し、当事業年度末には103,608千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度における営業活動の結果、使用した資金は4,112千円（前事業年度は2,241千円の使用）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度における投資活動の結果、得た資金は3,890千円となりました。液剤散布車スプレーヤー、マーシャルナビ基地移設等の設備投資が6,110千円ありましたが、投資有価証券10,000千円の償還があったことによります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

該当事項はありません。

③売上状況

a. 売上実績

科目	第55期 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)			第56期 (自 平成31年1月1日 至 令和元年12月31日)		
	人員 (人)	1日平均 (人)	金額 (千円)	人員 (人)	1日平均 (人)	金額 (千円)
年会費収入			31,175			30,362
メンバーフィ	9,243	45.3	2,585	8,983	47.0	2,437
法人メンバーフィ	3,781	18.5	7,734	3,900	20.4	7,900
ビジターフィ	5,175	25.4	5,178	4,743	24.8	4,324
キャディーフィ			61,951			61,822
ビジター保険料			627			601
諸費用収入			22,999			21,916
トーナメント参加料			3,259			3,127
コンペ参加料			3,856			4,034
貸用具収入			112			154
練習場収入			2,738			2,891
名義書換料			5,075			1,170
売店収入			2,436			1,876
レストラン収入			19,078			18,450
合計	18,199	89.2	168,803	17,626	92.3	161,064

b. 利用料金明細

科目	細目		金額（円）	
			前期	当期
年会費収入	一般会員 個人法人共 1口		25,000	25,000
	平日会員 個人法人共 1口		12,500	12,500
メンバーフィ	記名会員		500	500
法人メンバーフィ	法人無記名会員	平日	—	—
		土曜日祭	2,200	2,200
ゲストフィ		平日	1,090	1,090
		土曜	8,900	8,900
		日祭	8,900	8,900
キャディーフィ	1バック	メンバー	6,500	6,500
		ゲスト	7,500	7,500
	2バック	メンバー	5,000	5,000
		ゲスト	6,300	6,300
	3バック以上	メンバー	4,000	4,000
		ゲスト	5,300	5,300
ビジター保険収入			70	70
諸費用収入			1,300	1,300
トーナメント参加料		1競技	1,000	1,000
貸用具収入	クラブ	フルセット	3,000	3,000
		1本	200	200
	シューズ	1足	500	500
練習場収入	練習ボール1箱（30ヶ）		300	300

(2)経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末において判断したものであります。

①重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。また、この財務諸表の作成にあたり必要と思われる会計上の見積りについては、合理的な基準に基づいて実施しております。

②当会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a.経営成績等

1) 財政状態

(流動資産)

流動資産は、前事業年度末と比較し423千円減少し、当事業年度末で111,547千円となりました。これは入場者減および名義変更料の減少により、現金及び預金が減少したことによるものであります。

(固定資産)

固定資産は、前事業年度末と比較して23,820千円減少し、当事業年度末で686,282千円となりました。これは主に投資有価証券10,000千円の償還によります。

(流動負債)

流動負債は、前事業年度末と比較して412千円増加し、当事業年度末で7,000千円となりました。

(固定負債)

固定負債は、前事業年度末と比較して25,094千円減少し、当事業年度末で940,699千円となりました。これは主に長期預り保証金が減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産は、前事業年度末と比較して438千円増加し、当事業年度末で△149,871千円となりました。

2) 経営成績

当事業年度における売上高は前年比7,739千円減の161,064千円となりました。これは営業日数の減少による入場者数の減少が主な要因です。売上原価は前年比723千円減少の11,303千円。販売費及び一般管理費は前年比2,360千円減少の182,711千円で、経常損失は前年比5,103千円悪化の23,015千円となりました。当期純利益は前年比57千円増加の438千円となりました。

3) キャッシュ・フローの状況

当事業年度のキャッシュ・フローの状況の分析につきましては、(1)経営成績等の概要 ②キャッシュ・フローに記載のとおりであります。

b.経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

景気低迷、ゴルフ人口の減少等の複合的原因によって、売上高は競争による低価格化を入場者増加にて補填するも、今後一層の経費節減と効率化がますます重要になります。同時に、経費節減により顧客満足度が低下しないように努めることも課題です。10年前の電磁誘導カート導入後、入場者数も増加傾向であり、高齢化にも充分配慮していきます。

c.資本の財源及び資金の流動性

当社が営む事業における主な資金需要は、ゴルフ場の整備維持管理に必要な運転資金、ゴルフコース及び付属設備に係る設備資金です。これらの資金需要に対しては、内部資金を活用しております。金融機関からの借入による資金調達は行っておりません。内部資金の範囲内で、事業を行っていくことを基本方針としております。

4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

当社の消費税等に係る会計処理は、税抜き方式によっているため、この項に記載の金額には消費税等は含まれておりません。

1【設備投資等の概要】

当期の設備投資は液剤散布車スプレーヤー、複合受信機、マーシャルナビ基地移設、フロント会計追加機能で老朽化等の更新と人手不足に伴う効率化を促進するものであります。その結果当事業年度末の設備投資額は6,110千円となりました。

2【主要な設備の状況】

当社における主要な設備は、以下のとおりです。なお、子会社はありません。

事業所別	土地		建物		構築物		機械及び装置 (千円)	車両運搬具 (千円)	その他 (千円)	従業員数 (人)
	面積 (㎡)	金額 (千円)	面積 (㎡)	金額 (千円)	一般 (千円)	コース (千円)				
本社	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15
ゴルフ場 上川郡 愛別町	1,824,789	26,695	3,560	158,005	44,886	271,719	15,375	5,812	21,180	—
合計	1,824,789	26,695	3,560	158,005	44,886	271,719	15,375	5,812	21,180	15

- (注) 1. 令和元年12月31日の帳簿価額によっております。
2. その他の内訳は、「山林」15,242千円、「立木」5,938千円であります。
3. ゴルフ場の臨時従業員は4月から11月まで臨時雇用として29人使用しております。
4. 本社建物 賃借 旭川市5条通10丁目223番地の13 山文ビル内の一部 66.0㎡
5. 現在休止中の設備はありません。
6. リース契約による賃借設備は、ありません。

3【設備の新設、除却等の計画】

設備の新設計画は次のとおりであります。

事業所別	所在地	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月	
			総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了
旭川国際カントリークラブ	上川郡愛別町伏古	トラクター芝刈り機	590	—	自己資金	令和2年3月	令和2年4月

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	60,000
計	60,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 （株） （令和元年12月31日）	提出日現在発行数 （株） （令和2年3月27日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	41,400	41,400	該当事項はありません。	当社は単元株制度は採用しておりません。
計	41,400	41,400	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】
該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高 (千円)
昭和61年5月1日	1,400	41,400	7,000	207,000	—	—

(注) 有償第三者割当発行価格 5千円 資本組入額 5千円 昭和61年5月1日以降、資本金は変動しておりません。

(5) 【所有者別状況】

令和元年12月31日現在

区分	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	合計
					個人以外	個人		
株主数 (人)	3	3	—	109	—	—	778	893
所有株式数 (株)	440	200	—	9,640	—	—	31,120	41,400
所有株式総数の割合 (%)	1.06	0.48	—	23.29	—	—	75.17	100

(6) 【大株主の状況】

令和元年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己 株式を除く。) の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
荒井建設株式会社	旭川市4条西2丁目	360	0.87
愛別町役場	上川郡愛別町本町1区	240	0.58
赤川建設興業株式会社	旭川市10条通9丁目左1号	160	0.39
株式会社生駒組	旭川市4条通3丁目	160	0.39
株式会社コハタ	旭川市永山2条3丁目2番16号	160	0.39
大地コンサルタント株式会社	旭川市4条西2丁目1-12	160	0.39
高田建設株式会社	旭川市永山4条10丁目2-15	160	0.39
計	—	1,400	3.38

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

令和元年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	—	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式41,400	41,400	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	41,400	—	—
総株主の議決権	—	41,400	—

② 【自己株式等】

令和元年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3 【配当政策】

剰余金の配当は、年1回期末配当を行うことを基本とし、株主総会の決議によって決定しておりますが、近年厳しい経営環境にあることから当期も引き続き無配とすることを決定しました。

株主に対する利益還元方法として株主（会員）に対するゴルフ場の使用料を、株主外の使用料に比し最低77.3%の安価にて優遇しております。

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考えとしては、株主・クラブ会員をはじめとする利害関係者の皆様に対して、経営の健全性及び効率性を確保するため、取締役会において迅速かつ的確な意思決定を図り、正確かつ十分な情報開示を行う経営体制の構築に取り組んでいます。

① 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

a. 会社の機関の内容

当社の取締役会は代表取締役1名、専務取締役1名、常務取締役1名、取締役3名、合計6名で構成されており、6名全員社外取締役であります。監査役2名のうち、1名は社外監査役であります。また、取締役会とは別に、当社の常務取締役以上3名と監査役2名及び旭川国際カントリークラブの常務理事以上6名と、監事3名、合計14名による合同常務会を設けております。

b. 内部統制システムの整備

取締役が他の取締役の法令定款違反行為を発見した場合は、取締役会及び監査役に報告することとしております。また、常勤監査役は業務全般にわたって管理監督を行っており、必要に応じて、その結果を取締役に報告しております。

また、当社監査役2名と旭川国際カントリークラブ監事3名による合同監査を1月下旬に実施しております。

② リスク管理体制の整備状況

当社の取締役会が中心となり、リスクの現状分析を行い、課題を明確にし今後の対策については検討を行っております。

③ 役員報酬の内容

取締役6名 一千円(無報酬)

監査役2名 1,644千円(社外監査役は無報酬)

④ 取締役の定数

当社の取締役は20名以内とする旨を定款で定めております。

⑤ 取締役の選任の決議事項

当社は取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、またその決議は累積投票によらない旨定款に定めております。

⑥ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

①役員一覧

男性8名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役食名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役社長 (代表取締役)	太田 秀明	昭和21年6月30日	昭和40年4月 赤川建設興業(株)入社 昭和59年5月 赤川建設興業(株)取締役就任 昭和61年5月 赤川建設興業(株)取締役専務就任 昭和62年12月 赤川建設興業(株)取締役社長就任 (現任) 平成12年8月 旭川建設業協会副会長就任(現任) 平成13年3月 当社常務取締役就任 平成14年6月 当社取締役社長就任(現任)	注2	40
専務取締役	荒井 保明	昭和35年12月12日	平成12年5月 荒井建設(株)取締役社長就任(現任) 平成18年3月 当社常務取締役就任 平成31年3月 当社専務取締役就任(現任)	注2	40
常務取締役	金谷 和文	昭和20年10月5日	昭和57年4月 旭陽電機(株)取締役就任 昭和63年4月 旭陽電機(株)専務取締役就任 平成4年4月 旭陽電機(株)代表取締役就任(現任) 平成13年3月 当社常務取締役就任(現任)	注2	40
取締役	森山 領	昭和29年3月4日	昭和54年3月 (医)元生会森山病院就職 昭和60年1月 (医)元生会森山病院院長就任 (現任) 昭和61年3月 (福)啓生会常務取締役就任(現任) 平成9年3月 当社取締役就任(現任)	注2	40

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	新谷 龍一郎	昭和27年1月11日	昭和53年3月 新谷建設㈱入社 昭和62年9月 新谷建設㈱代表取締役就任（現任） 昭和62年9月 （学）北工学園理事長就任（現任） 平成9年3月 当社取締役就任（現任） 平成21年3月 旭川商工会議所会頭就任（現任）	注2	40
取締役	辻 利郎	昭和19年1月23日	昭和63年3月 丸果旭川青果卸売市場㈱取締役社長就任（現任） 平成15年3月 当社取締役就任（現任）	注2	40
監査役	小山 陸郎	昭和19年10月2日	平成11年4月 当社事務長として入社 平成15年1月 支配人就任 平成18年3月 取締役総支配人就任 平成26年3月 当社監査役就任（現任）	注3	40
監査役	新田 三千明	昭和19年11月28日	昭和43年10月 司法書士 新田三千明事務所開業 昭和43年10月 司法書士 新田三千明事務所所長に就任（現任） 平成20年3月 当社監査役就任（現任）	注3	40
計					320

注1 取締役6名全員社外取締役であり、監査役新田三千明は社外監査役であります。

注2 取締役の任期は、平成30年12月期に係る定時株主総会終結の時から令和2年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

注3 監査役の任期は平成30年12月期に係る定時株主総会終結の時から令和4年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

②社外役員の状況

取締役6名、監査役2名は全員株主で、旭川国際カントリークラブの会員でもあります。

資本的には少額な出資ではありますが、人的関係及び取引関係においては一切利害関係はありません。

(3) 【監査の状況】

① 監査役監査の状況

当社における監査役は常勤監査役1名、社外監査役1名であり、取締役会をはじめとする重要な会議に出席して経営方針の決定過程や業務執行を監視するとともに提言、助言を行い適正な取締役会の運営の遂行と経営全体に対する監視を行っております。

尚、監査役新田三千明は司法書士資格を有し法務全般に関する知見を有しております。

② 内部監査の状況

当社は特に内部監査組織を設けていませんが、監査役が取締役会並びに合同常務会への出席、業務及び財産の調査等を通じて、取締役の職務執行の状況を監視するほか、中間決算、年度決算等について当社の会計監査人との間で情報交換を行っております。

③ 会計監査の状況

a. 業務を執行した公認会計士の氏名

伊藤 隆 (継続監査期間13年)

b. 監査証明の審査体制

監査証明に対する審査体制として、当社の監査に関与しない他の公認会計士1名による監査意見表明のための審査を受けております。

c. 監査公認会計士の選定方針と理由

当社では、会計監査人の当社との独立性に関する事項、会計監査人の事務所の品質管理の方針の適正性を確認しております。さらに、当該会計監査人の職務の執行が適正に行われることを確保するための体制が確立されていることを選定方針としております。

公認会計士伊藤隆氏は、会計監査人としての独立性及び専門性、当社の業種や事業規模、業務内容に適した監査対応、監査費用の相当性等を総合的に勘案した結果、適任と判断いたしました。

d. 監査役による監査法人の評価

当社の監査役は、当事業年度における会計監査人の監査方法及び結果を相当であると評価しております。

③ 監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
1,600	—	1,600	—

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬 (a. を除く)

該当事項はありません。

c. その他の重要な報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

当社は監査報酬の決定方針は策定しておりませんが、会計監査人から提示された監査計画に基づく監査予定時間及び一般に妥当と認められる水準等を勘案して、決定しております。

e. 監査役が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役は、会計監査人の監査計画内容、報酬の見積りの算出根拠等が当社の事業規模において適切であるかどうかについて、検討を行った結果、相当であると判断し、同意しております。

(4) 【役員の報酬等】

当社は非上場会社でありますので、記載すべき事項はありません。

なお、役員報酬の内容につきましては、「4 コーポレート・ガバナンス状況等 (1) コーポレートガバナンスの概要」に記載しております。

(5) 【株式の保有状況】

当社は非上場会社でありますので、記載すべき事項はありません。

第5【経理の状況】

1．財務諸表等の作成方法について

当社の財務諸表は「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第56期（平成31年1月1日から令和元年12月31日まで）の財務諸表について、公認会計士伊藤隆氏により監査を受けております。

3．連結財務諸表について

該当事項はありません。

1 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年12月31日)	当事業年度 (令和元年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	103,830	103,608
売掛金	1,415	1,431
未収入金	2,953	3,216
前払費用	395	385
貯蔵品	3,385	2,942
貸倒引当金	△8	△35
流動資産合計	111,970	111,547
固定資産		
有形固定資産		
建物	602,596	603,346
減価償却累計額	△435,279	△445,341
建物（純額）	167,317	158,005
構築物	510,737	510,367
減価償却累計額	△191,401	△193,762
構築物（純額）	319,336	316,605
機械及び装置	161,229	156,709
減価償却累計額	△141,899	△141,334
機械及び装置（純額）	19,330	15,375
車両運搬具	102,125	106,655
減価償却累計額	△98,066	△100,843
車両運搬具（純額）	4,059	5,812
工具、器具及び備品	61,184	60,872
減価償却累計額	△61,144	△60,872
工具、器具及び備品（純額）	40	0
土地	26,695	26,695
山林	15,242	15,242
立木	5,938	5,938
有形固定資産合計	557,956	543,672
無形固定資産		
電話加入権	1,036	1,036
ソフトウェア	944	1,408
無形固定資産合計	1,980	2,444
投資その他の資産		
出資金	166	166
投資有価証券	150,000	140,000
投資その他の資産合計	150,166	140,166
固定資産合計	710,102	686,282
資産合計	822,072	797,829

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年12月31日)	当事業年度 (令和元年12月31日)
負債の部		
流動負債		
未払費用	1,905	1,380
未払金	393	206
買掛金	108	112
未払法人税等	1,093	1,169
未払消費税等	1,378	2,251
預り金	1,684	1,855
前受金	27	27
流動負債合計	6,588	7,000
固定負債		
退職給付引当金	4,843	5,049
長期預り保証金	960,950	935,650
固定負債合計	965,793	940,699
負債合計	972,381	947,700
純資産の部		
株主資本		
資本金	207,000	207,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△357,309	△356,871
利益剰余金合計	△357,309	△356,871
株主資本合計	△150,309	△149,871
純資産合計	△150,309	△149,871
負債純資産合計	822,072	797,829

②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	当事業年度 (自 平成31年1月1日 至 令和元年12月31日)
売上高	168,803	161,064
売上原価	12,026	11,303
売上総利益	156,777	149,761
販売費及び一般管理費		
役員報酬	2,076	1,644
コース維持費	17,120	17,045
給料及び手当	72,374	71,714
法定福利費	10,759	10,891
福利厚生費	646	603
退職給付費用	1,582	1,636
人材派遣費	2,000	1,307
消耗品費	1,927	1,320
事務用品費	1,140	776
営繕費	4,329	4,303
修繕費	293	242
水道光熱費	6,599	6,194
通信費	1,195	1,286
旅費及び交通費	2,082	2,164
車両費	574	306
競技費	6,251	5,849
広告宣伝費	607	562
交際費	274	193
事業推進費	14,464	13,616
負担金	856	839
寄付金	87	81
会議費	584	1,228
賃借料	1,565	1,527
保険料	2,021	1,952
図書費	88	84
支払手数料	4,972	5,493
租税公課	9,782	9,899
減価償却費	18,824	19,930
貸倒引当金繰入額	—	27
販売費及び一般管理費合計	185,071	182,711
営業損失(△)	△28,294	△32,950
営業外収益		
受取利息	882	401
受取配当金	3,002	3,002
利用税交付金	109	97
業務受託料	3,027	2,292
貸倒引当金戻入額	1,247	—
雑収入	2,152	4,174
営業外収益合計	10,419	9,966

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	当事業年度 (自 平成31年1月1日 至 令和元年12月31日)
営業外費用		
雑損失	37	31
営業外費用合計	37	31
経常損失(△)	△17,912	△23,015
特別利益		
債務償還益	18,636	23,864
特別利益合計	18,636	23,864
税引前当期純利益	723	849
法人税、住民税及び事業税	343	411
法人税等合計	343	411
当期純利益	381	438

【売上原価明細書】

		前事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)		当事業年度 (自 平成31年1月1日 至 令和元年12月31日)	
区分	注記 番号	金額（千円）	構成比 （%）	金額（千円）	構成比 （%）
売店商品期首棚卸高		—		—	
売店商品当期仕入高		12,026		11,303	
売店商品期末棚卸高		—		—	
売店売上原価		12,026	100.0	11,303	100.0

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本合計	
		その他利益剰余金	利益剰余金合計		
		繰越利益剰余金			
当期首残高	207,000	△357,689	△357,689	△150,689	△150,689
当期変動額					
当期純利益		381	381	381	381
当期変動額合計	—	381	381	381	381
当期末残高	207,000	△357,309	△357,309	△150,309	△150,309

当事業年度（自 平成31年1月1日 至 令和元年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				純資産合計			
	資本金	利益剰余金		株主資本合計				
		その他利益剰余金	利益剰余金合計					
		繰越利益剰余金						
当期首残高	207,000	△357,309	△357,309	△150,309	△150,309			
当期変動額								
当期純利益		438	438	438	438			
当期変動額合計	—	438	438	438	438			
当期末残高	207,000	△356,871	△356,871	△149,871	△149,871			

④【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	当事業年度 (自 平成31年1月1日 至 令和元年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
営業収入	173,431	167,315
人件費の支出	△86,569	△85,679
その他の営業支出	△92,987	△89,151
小計	△6,125	△7,515
利息及び配当金の受取額	3,884	3,403
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,241	△4,112
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の償還による収入	100,000	10,000
有形固定資産の取得による支出	△13,100	△5,280
無形固定資産の取得による支出	△950	△830
投資活動によるキャッシュ・フロー	85,950	3,890
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	83,709	△222
現金及び現金同等物の期首残高	20,121	103,830
現金及び現金同等物の期末残高	103,830	103,608

【注記事項】

（継続企業の前提に関する事項）

当社は、前事業年度に比し営業損失が増加し、当事業年度においても149,871千円の債務超過になっており、これにより継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

当社は当該状況を解消すべく、オープンコンペを年間39回実施し新規顧客の開拓に努めております。電磁誘導カート導入の効果を生むべく、引続き集客を図ります。

財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような重要な疑義の影響を財務諸表には反映しておりません。

（重要な会計方針）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

個別原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

1. 建物及び構築物 20年～50年

2. 機械及び装置、車両運搬具、工具器具備品 5年～16年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については回収可能性を検討し、回収不能見込み額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務と、中小企業退職金共済給付金との差額不足金を計上しております。

5. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

資金（現金及び現金同等物）の範囲は手許現金、随時引き出し可能な預金からなっております。

6. その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式により処理しております。

(貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(損益計算書関係)

該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	41,400	—	—	41,400
合計	41,400	—	—	41,400
自己株式				
普通株式	—	—	—	—
合計	—	—	—	—

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成31年1月1日 至 令和元年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	41,400	—	—	41,400
合計	41,400	—	—	41,400
自己株式				
普通株式	—	—	—	—
合計	—	—	—	—

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	当事業年度 (自 平成31年1月1日 至 令和元年12月31日)
現金及び預金勘定	103,830千円	103,608千円
預入期間が3か月を超える定期預金	—	—
現金及び現金同等物	103,830千円	103,608千円

(リース取引関係)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については安全性の高い金融資産で運用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

売掛金は主に年会費に係るものであるが、預り保証金があるため、信用リスクは軽減されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

イ. 信用リスク（取引先の契約不履行等によるリスク）の管理

売掛金は、顧客ごとに期日及び残高を管理すると共に、必要に応じて回収懸念の早期把握や低減を図っております。

ロ. 市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

当社は、投資有価証券について、定期的に発行体の財務状況を把握し、保有状況を適時に見直しております。

ハ. 資金調達に係る流動性のリスク（約定期日に支払いが実行できなくなるリスク）

当社は、財務の状況を随時チェックしており、一定の手許流動性を維持すること等によりリスクを管理しています。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価格のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価格が含まれております。当該価格の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価格が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

前事業年度（平成30年12月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	103,830	103,830	—
(2) 売掛金	1,415		
貸倒引当金(*1)	△8		
	1,407	1,407	—
(3) 未収入金	2,953	2,953	—
(4) 投資有価証券			
満期保有目的の債券	50,000	51,775	1,775
資産計	158,190	159,965	1,775
(1) 未払費用	1,905	1,905	—
(2) 未払金	393	393	—
(3) 未払法人税等	1,093	1,093	—
(4) 未払消費税等	1,378	1,378	—
負債計	4,769	4,769	—

(*1)売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

当事業年度（令和元年12月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	103,608	103,608	—
(2) 売掛金	1,431		
貸倒引当金(*1)	△35		
	1,396	1,396	—
(3) 未収入金	3,216	3,216	—
(4) 投資有価証券			
満期保有目的の債券	50,000	51,275	1,275
資産計	158,220	159,495	1,275
(1) 未払費用	1,380	1,380	—
(2) 未払金	206	206	—
(3) 未払法人税等	1,169	1,169	—
(4) 未払消費税等	2,251	2,251	—
負債計	5,006	5,006	—

(*1)売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項
資 産

(1) 現金及び預金、(3) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 売掛金

売掛金については、短期的に決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。また、貸倒懸念債権については、貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額をもって時価としております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。
また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご参照ください。

負 債

(1) 未払費用、(2) 未払金、(3) 未払法人税等、(4) 未払消費税等

いずれも時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成30年12月31日)	当事業年度 (令和元年12月31日)
その他有価証券	100,000	90,000
長期預り保証金	960,950	935,650

これらについては、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記の表には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額
前事業年度（平成30年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	103,830	—	—	—
売掛金	1,415	—	—	—
未収入金	2,953	—	—	—
満期保有目的の債券	—	50,000	—	—
合計	108,198	50,000	—	—

当事業年度（令和元年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	103,608	—	—	—
売掛金	1,431	—	—	—
未収入金	3,216	—	—	—
満期保有目的の債券	—	50,000	—	—
合計	108,255	50,000	—	—

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前事業年度（平成30年12月31日）

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	時価（千円）	差額（千円）
時価が貸借対照表計上額 を超えるもの	国債・地方債等	50,000	51,775	1,775
計		50,000	51,775	1,775

当事業年度（令和元年12月31日）

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	時価（千円）	差額（千円）
時価が貸借対照表計上額 を超えるもの	国債・地方債等	50,000	51,275	1,275
計		50,000	51,275	1,275

2. その他有価証券

前事業年度（平成30年12月31日）

該当事項はありません。

（注）非上場株式（貸借対照表計上額100,000千円）につきましては市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、その他有価証券には含めておりません。

当事業年度（令和元年12月31日）

該当事項はありません。

（注）非上場株式（貸借対照表計上額90,000千円）につきましては市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、その他有価証券には含めておりません。

3. 売却した満期保有目的の債券

前事業年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成31年1月1日 至 令和元年12月31日）

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

前事業年度(自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。

この退職金の支払いに備えるため、中小企業退職金共済事業団に加入しており、退職一時金の一部に同事業団からの給付を充てています。なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付債務を計算しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	4,621千円
退職給付費用	1,582千円
制度への拠出額	△1,360千円
退職給付引当金の期末残高	4,843千円

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

積立型制度の退職給付債務	26,627千円
年金資産	21,784千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,843千円

退職給付引当金	4,843千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,843千円

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	1,582千円
----------------	---------

当事業年度（自平成31年1月1日 至令和元年12月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。

この退職金の支払いに備えるため、中小企業退職金共済事業団に加入しており、退職一時金の一部に同事業団からの給付を充てています。なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付債務を計算しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

（1）簡便法を適用した制度の退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	4,843千円
退職給付費用	1,636千円
制度への拠出額	△1,430千円
退職給付引当金の期末残高	5,049千円

（2）退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

積立型制度の退職給付債務	28,104千円
年金資産	23,055千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,049千円
退職給付引当金	5,049千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,049千円

（3）退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	1,636千円
----------------	---------

(ストック・オプション等関係)
該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成30年12月31日)	当事業年度 (令和元年12月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	2千円	11千円
未払事業税	234	254
繰越欠損金	501	388
退職給付引当金	1,481	1,545
繰延税金資産小計	2,218	2,198
評価性引当額	△2,218	△2,198
繰延税金資産合計	—	—

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成30年12月31日)	当事業年度 (令和元年12月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	11.6	6.9
受取配当金等の永久に益金に算入されない項目	△25.4	△21.6
住民税均等割	47.4	37.9
評価性引当額の増減	△15.5	△2.4
その他	△1.3	△3.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	47.4	48.4

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

当社は、ゴルフ場事業及びこれに付帯する業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度（自 平成31年1月1日 至 令和元年12月31日）

当社は、ゴルフ場事業及びこれに付帯する業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

1.製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2.地域ごとの情報

(1)売上高

当該期損益計算書の売上高は、すべて本邦の外部顧客への売上高のため、記載を省略しております。

(2)有形固定資産

当該期貸借対照表の有形固定資産は、すべて本邦に所在している有形固定資産のため、記載を省略しております。

(3)主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当事業年度（自 平成31年1月1日 至 令和元年12月31日）

1.製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2.地域ごとの情報

(1)売上高

当該期損益計算書の売上高は、すべて本邦の外部顧客への売上高のため、記載を省略しております。

(2)有形固定資産

当該期貸借対照表の有形固定資産は、すべて本邦に所在している有形固定資産のため、記載を省略しております。

(3)主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引
該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報
該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	当事業年度 (自 平成31年1月1日 至 令和元年12月31日)
1株当たり純資産額 △3,630円 64 銭	1株当たり純資産額 △3,620円 7 銭
1株当たり当期純利益 9円 20 銭	1株当たり当期純利益 10円 57 銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	当事業年度 (自 平成31年1月1日 至 令和元年12月31日)
当期純利益(千円)	381	438
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	381	438
期中平均株式数(株)	41,400	41,400

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤【附属明細表】
【有価証券明細表】
【株式】

銘柄			株式数（株）	貸借対照表計上額 （千円）
投資有価証券	その他有価証券	株式会社北海道銀行	180,000	90,000
		小計	180,000	90,000
計			180,000	90,000

【債券】

		銘柄	券面総額（千円）	貸借対照表計上額 （千円）
投資有価証券	満期保有目的の債券	第325回 利付国債	50,000	50,000
		小計	50,000	50,000
計			50,000	50,000

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残 高 (千円)
有形固定資産							
建物	602,596	750		603,346	445,341	10,062	158,005
構築物	510,737	—	—	510,737	193,762	2,730	316,605
機械及び装置	161,229	—	—	156,709	141,334	3,955	15,375
車両運搬具	102,125	4,530	—	106,655	100,843	2,776	5,812
工具、器具及び備品	61,184	—	—	60,872	60,872	40	0
土地	26,695	—	—	26,695	—	—	26,695
山林	15,242	—	—	15,242	—	—	15,242
立木	5,938	—	—	5,938	—	—	5,938
有形固定資産計	1,485,773	5,280	—	1,485,824	942,152	19,563	543,672
電話加入権	1,036	—	—	1,036	—	—	1,036
ソフトウェア	944	830	—	1,774	—	366	1,408
無形固定資産計	1,980	6,110	—	2,810	—	366	2,444

(注) 当期増加額の主なものは下記のとおりです。

ソフトウェア	フロント会計追加機能	増加額	280千円
ソフトウェア	マーシャルナビ基地移設	増加額	550千円
車両運搬具	液剤散布車スプレーヤー	増加額	4,530千円
建物	複合受信機	増加額	750千円

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	8	27	—	—	35

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

当事業年度末（令和元年12月31日現在）における主な資産及び負債の内容は下記のとおりであります。

① 現金及び預金

区分	金額（千円）
現金	251
預金の種類	
普通預金	103,357
定期預金	—
定期積金	—
合計	103,608

② 売掛金

相手先	金額（千円）
旭川国際カントリークラブ年会費未収金	1,431
その他	0
合計	1,431

③ 貯蔵品

区分	金額（千円）
融雪剤他	1,556
練習用ボール	660
売店在庫他	726
合計	2,942

④ 長期預り保証金

区分	金額（千円）	内容
株主会員	87,400	1 口 10万円 874口
	40,800	1 " 60 " 68 "
	40,000	1 " 80 " 50 "
	35,000	1 " 100 " 35 "
平日会員	1,050	1 " 35 " 3 "
権利会員	731,400	1 " 230 " 329 "
合計	935,650	

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	特に定款に規定はありません。
株券の種類	1株券 10株券 40株券
剰余金の配当の基準日	特に定款に規定はありません。
1単元株式数	該当事項はありません。
株式の名義書換え 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 名義書換手数料 新券交付手数料	旭川市5条通10丁目2233番地の13 株式会社旭川国際ゴルフ場事務局 該当事項はありません。 該当事項はありません。 無料 無料
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	該当事項はありません。 該当事項はありません。 該当事項はありません。 該当事項はありません。
公告掲載方法	官報
株主に対する特典	株主はゴルフ場の使用料を次のとおり優遇されております。 グリーンフィ 500円

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

該当事項はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

平成31年3月25日北海道財務局長に提出

事業年度（第55期）（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

(2) 半期報告書

令和元年9月27日北海道財務局長に提出

（第56期中）（自 平成31年1月1日 至 令和元年6月30日）

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

令和2年3月27日

株式会社旭川国際ゴルフ場

取締役会 御中

伊藤公認会計士事務所 公認会計士 伊藤 隆 印

私は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社旭川国際ゴルフ場の平成31年1月1日から令和元年12月31日までの第56期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社旭川国際ゴルフ場の令和元年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

継続企業の前提に関する注記に記載されているとおり、会社は当事業年度末現在149,871千円の債務超過の状況にあり、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しており、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる。当該状況に対する会社の対応策及び重要な不確実性が認められる理由については当該注記に記載されている。財務諸表は継続企業を前提にして作成されており、このような重要な疑義の影響を財務諸表には反映していない。

利害関係

会社と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。